



THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB. 1993



2020～2021 年度主題

<No.301 会津通信>
2020年11月10日発行

| | | |
|---------|----------------------------|------------------------|
| 国際会長 | Jacob Kristensen (Denmark) | 「価値観、エクステンション、リーダーシップ」 |
| アジア地域会長 | David Lua (Singapore) | 「変化をもたらそう」 |
| 東日本区 理事 | 板村 哲也 (東京武蔵野多摩) | 「変化をたのしもう！」 |
| 北東部 部長 | 南澤 一右 (仙台青葉城) | 「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」 |
| 会津クラブ会長 | 青山 孝男 | 「変わらずに歩んで、がんばっぺ！」 |

| | |
|-----|------|
| 会長 | 青山孝男 |
| 副会長 | 高橋眞美 |
| 書記 | 高橋真人 |
| 会計 | 高橋真人 |

◇11月の聖句◇

あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しく
ない者にも雨を降らせてくださるからである。

マタイ福音書5章45節

11月例会

日時：2020年11月10日（火）19：00～21：00

場所：若松栄町教会

司会：高橋 京子ウイメン

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング 一同
3. 会長挨拶 会長
4. 連絡報告
5. 聖句朗読 高橋 カ メン
6. 食前感謝
7. 歓談 ワイズ理解 切手整理
8. Happy Birthday! Happy Anniversary!
10日 高橋 カメ 21日 高橋眞美ウイメン
9. 閉会点鐘 会長

「戦争体験を語り継ぐ会」講演会に思う

高橋京子ウイメン

会津クラブ発足の糸口をつくった高橋力さんの戦争体験を聞く「会津九条の会」の講演会がありました。



「戦争は人の心を壊します」との言葉で始められ「ぼくは人の死に鈍感になった。自己険悪、人間不信になった」と、戦争が人を変えていく体験を語られました。私たちに必要な事を、絶えず示してこられた牧師としての証言だったと感じました。

長寿社会を迎えたとは言え、戦争体験者は日々少なくなり、その体験を聞く窓口を失うのも間もなくのことです。私もその体験者ですが、樺太（現サハリン）の知取（現マカロン）という町に住んで戦争を迎え潜んでいた防空壕のすぐそばを、幾十両もの戦車がゴウゴウと乗り入れて入る音と響きを聞いたドキドキ感。戦後の必死だった日々を思い出します。それはやはり、異様な体験ですから、語らねば・・・と思いますが、一口で言えば「こわかった、という幼児体験ですから、どうして戦争じゃダメなのか、平和でなければいけないのか？」そこまではなかなか届かない！と言うじれったさがあります。力先生の視点で体験を語るという重さがあるところにあると思うのです。

これからも続けられる予定、力先生ガンバレ！

（次号は青山会長）

<10月例会出席状況>

在籍者 5名 ゲスト 0名

出席者 5名

*例会出席率 100%

あかべこ 5,000円

20-21年度合計 20,000円

《例会》

毎月第2火曜日 19：00～21：00

若松栄町教会 (☎0242-27-3944)

強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う

理事通信

理事メッセージ

東日本区理事 板村 哲也（東京武蔵野多摩）



日中は過ごしやすく朝夕は冷え込む時節となりました。これまでもお伝えしてきましたが、10月3日に千葉ウエストクラブの国際協会加盟認証状が伝達され、新会員の皆さまが世界的ボランティア団体の一員として正式に一步を踏み出されました。おめでとうございます。きわめて明るくうれしい出来事で、元気づけられます。東日本区の皆さま、また世界の仲間と共に慶び、これが弾みになり、さらに新たな展開が生じることを期待致します。

9月末から10月中旬にかけて5つの部大会が開催されました。難しい環境の中、それぞれが工夫を凝らし実施されました。中には対面とリモートのハイブリッドというチャレンジングな部大会もありました。仲間との久々の再会でワイズの良さを再確認されたのではないのでしょうか。今月号はこの部大会の様子を特集しました。

部大会の開催も大きな変化を余儀なくされましたが、実際にやってみると新たな発見があり、考えていたよりはるかに多くのことを学び、自分が変わったと感じられたのではないのでしょうか。結果の良し悪しに拘わらず、全てが学びとしてプラスになったのではないのでしょうか。学びのタネはどこにでもあり、学ぶことに事欠きません。学びに年齢制限は有りません。学び続けることにより知らず知らずに若さを保つのではないのでしょうか。長寿の時代、気負わずに楽しく学び続けたいものです。

今年度も早や3分の1が経過しました。厳しい環境の中、これまで通りにできないことの原因を探るのは簡単ですが、一つでも二つでも前向きなこと、新しいことを探し取り組んで行きましょう。11月は「ワイズ理解」の強調月間です。この機会に改めてこれからの時代に合ったワイズの在り方などを考えてみましょう。

足跡

年賀はがき販売開始「赤べこ」な どデザインに



二〇二一（令和
三）年用のお年玉

付き年賀はがきが二十九日、全国一斉に発売された。会津若松市の会津若松郵便局はセレモニーを行い、寄付金付絵入り年賀はがき全国版の図案を考案した日本郵便の切手デザイナー中丸ひとみさん（会津若松市出身）が、年賀はがきを買い求めた人に記念品を渡した。中丸さんは、会津地方の郷土玩具「赤べこ」、寒さに負けず花を咲かせるウメ、空高く上がる凧（たこ）を描いた。岩崎淳局長がデザインを踏まえ「全国へ会津を発信できる」とあいさつし、販売開始を宣言した。（福島民報 11/16より）

会津クラブのブリテンヘッドにも「赤べこ」を使用しています。多少スリムですが、26年間会津クラブの活動と共に歩んでいます（余談ですが、ブリテンヘッドのデザインに赤、白、青は会津地方を走る「あいづタクシー」と同様です）。ここであかべこの由来を会津で語り継がれる赤べこの伝説で紹介します。会津地方の民芸品として親しまれている「赤べこ」は、圓藏寺虚空蔵堂（柳津町）を建立する際、人々が大木を運ぶのに難儀していると、どこからともなく現れ、重労働で多くの牛が倒れるなかでも最後まで手伝ってくれたのが赤色の牛だったという伝説から生まれました。

黒い斑点のなごは、数百年前、会津地方に天然痘が流行し、大勢の命が失われました。その際、天然痘に苦しむ子どもがいる家に親類から「赤べこ」が送られてきたところ、その子は命を落とすことなく、すっかり元気になりました。「赤べこ」が身代わりになって病気から守ってくれたと大変喜ばれたそうです。「赤べこ」のお腹にある黒丸の模様は、天然痘が治った時にできた痕だと言われています。今でも会津地方では、「赤べこ」は「持っている人を悪い病気から守ってくれる」と信じられています。※諸説あります（市の掲示板より）

★今後の予定★

★ 12月例会(クリスマス) ★

12月8日（火）